

Catch the eye 2015年4月

2015/4/1 新年度スタート
(水)

晴れの日が続いていたが、今日は雨。いっきに咲いた桜が、いっきに散るのではないかと心配する向きもある。でも花は散るときに散る。満開までは少々の雨では散らないという。そういう自然の姿から感じとるものが多いから『風姿花伝』も生まれた、たぶん。

4月1日、例年の光景がお向かいのJR西日本本社ビル玄関。組合の人たちが新入社員に向けてメッセージを送る。けっこうな人数の組合員たちが幟をもって、押し寄せていたが、雨のせい、あまり声が聞こえてこない。場所を移したのかしら。

新入社員といえば、彼らの研修風景をみる機会があった。50年前の熟年の人からすると、今のわたしたちは別な人種のように映ると思う。もう少しすると、わたしたちも今の彼らをそう感じるようになる。姿かたちは同じででも、精神や感度・感性は相当に変化していると感じとる。

成果や効率を最優先する社会の構造と仕組みの中で育ってきた彼ら、何につけ、まず意識するのは、自分への評価や自分のためになるかどうかのよう。日常のささいな奉仕的行動のアンテナがあまりたたないよう。本人たちの問題というより、そういう社会環境になっている。

そういえば、『人は世につれ、世は人につれ』という言葉があった・・・。

2015/4/2 うつぼ公園、桜
(木) 見散歩

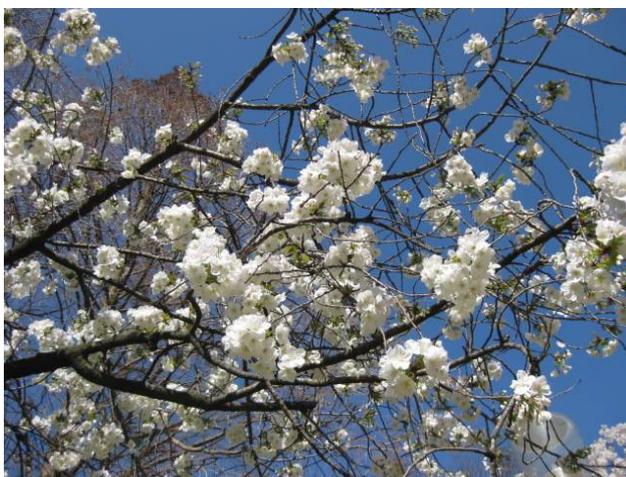
1日は雨だった。おかげで澄んだ青空。3日からまた雨になるとのこと、桜を見ながら企画のアイデアを練ろうと、事務所へ来る前にうつぼ公園へ寄り道。桜が空によく映えて本当に見とれるのだけど、いつもながら、陣取りのあのブルーシートが興ざめ。なんとも不粋。



枝垂れも



八重も



染井吉野も同時に見頃とは！





2015/4/3
(金) 『櫻の樹の下には』

今日はまた雨。明日から週明けにかけても曇りりから雨の予報。昨日の段階でほぼ満開の桜、うつぼ公園へ朝寄り道したら、早々と陣取りのブルーシートが桜の木の下を覆う。『櫻の樹の下には』・・・。

日経の日曜版に梶井基次郎のことが連載されていた。『櫻の樹の下には』の本のこともちょっと触れていた。その箇所を読んで、“そういえば、あのとき書いていた”。

最初に入った会社で社内報をつくることになった。それを担当していた。はるか昔のことですっかり忘れていた。櫻の季節の号で、『櫻の樹の下には』の内容を引用した。

参照は書くまでもないと思ったのか、忘れたのか、社内報が渡りきった頃、『君はすごいことを書くね』と上司の一人から言われた。いやいや、わたしが言っているのではありませんよ、と慌てたものだった。

あの社内報、退職する頃にはつくっていなかったと思う。どのぐらい続けたらう。それは憶えていないが、全体の構成はなんとなくわかる。そう、いまのリーズレターに通ず。こうして自分を知っていく年の重なり。

2015/4/7 お昼にバル
(火)

今日はまたちょっと寒い。日曜から曇りや雨続きで大阪市内の桜はすっかり葉桜。路面の水溜りに花びらが浮かぶ。これはどこにどう消えていくのだろう。近隣の人が掃除しただけではなくなる。風に飛ばされ、土のある場所におりて、自然にかえるのだろうか。

“おーお、やってますね”。2日に改装オープンした旧伊勢丹、地下にバル街ができて、まずはランチでもと寄ってみた。ガラスごしに、お昼からワインやビールのグラスを口にはこぶ女性たち。みんな愉しそう。昼食だけの人たちには目に毒。

オープン初日に、このバルの一面だけは見ておいた、日帰りがけに。「横丁」なみの通路幅両サイドにオープンなお店が並ぶ。日本酒、カレー、ラーメン、生ハム、寿司、肉、フレンチおでん、宮崎料理など。店舗ごとの設えもなかなかいい。営業はなんと、11時から24時まで。

こじんまりとしたカウンターメインの日本酒バルでは、若い女性の一人客の姿。立ち呑みだから勇気がいると思うけど。同じくカウンターだけ生ハムのお店では隣の客とも気さくに会話しながら一緒に食とワインをたのしんでいる雰囲気。その前を通る物見遊山な人たちを和ませる。

日本酒バルでランチをしているかと思ったら、やってなかった。今日のところは素通りした。また今度、飲めるときにしよう。働き方も多様になっているし、フリーな熟年層も街に繰り出しているし、そういう人たちの平日日中のちょうどいい場所ができたよう。

2015/4/9(滋賀県大津駅
木)

線路を隔てて桜の並木あり。ホームに桜の花びら



2015/4/11 『花の供養に』
(土)

お向かいのJR西日本本社ビルの桜が散り始め、あたりの道は薄紅柄。日経夕刊のプロムナードを思い出し、花ごと落ちた桜を見つけて、拾う。



2015/4/12 木津川、八木邸
(日)

1月から2月にかけてあった相楽の創業塾。塾生一丸となり古民家でコラボの予定。初めて知った「八木邸」。







2015/4/13 桜の花一つ
(月)

昼下がりに、予報に反して晴れてきた。このまま雨がふらなければ『通り抜け』では瑞々しい夜桜を望めるのではないか。今年は15日までらしい。人が多くて風情はあまりないけど、桜はきれい。

街なかのソメイヨシノは花びらを遠くまで飛ばして葉桜になってきた。お迎えのJR西日本本社ビルの桜も周辺の道路を薄紅の花柄に設えている。雨の水溜りには花びらが重なりたまっている。

はらはらと目の前をよこぎる花びらに、頭上を見上げる初老の男性。場外馬券場から出たきた人と見た。「花より団子」のイメージながら、垣に近づき上体を前かがみに、葉の先にとまる花びらを指先でつまんだ。

この男性に先を越されたような、気持ちはわかるような妙な親近感をもちながら腋を通りすぎた。9日の日経夕刊プロムナードを思い出し、花びら一つ拾い、筆者の勧めに応じようと思っていた。

そんな思いの前に、花一つそのまま落として道路に伏せている桜が歩の先にいた。そっと拾い、軽く指でつまみ、事務所へつれてきた。写真を撮り、本棚に立てた本の天に寝かせた。『花の供養に』。

2015/4/16 高野山
(木)



2015/4/17 「お一人様」の
(金) 先

昨日は久しぶりに晴れ、今朝はまた雨が降った。でも昼ぐらいから晴れて、明日は絶好の行楽日和になるらしい。そろそろ新芽、新緑が目と和ませるようになってきた。ひかえ気味に薄緑の葉を枝の先端に押しだして、土の下の根っこでわが世の時を待つ澆刺をした木の気に気持ちが明るくなる。春本番。

明るくなるといえば、ずいぶん早い時間から空が明るくなった。5時すぎには鳥が鳴き始め、5時半ごろになるともうすっかり朝。日中の時間が長くなり、季節も良く、たのしい時間が長くとれる。そういうことからか、今朝の電車に老年女子のグループが乗ってきた。

通勤時間帯で席は空いていない。降乗車口の片方の手すりに誰かがつかまり、他の人たちは寄り合ってたまっている。リーダー格の一人が降りる駅を回りに告げる。但し一度では済まない。聞きとれない人、聞きとれてもピンとこない人。

聞き返したり、隣どうしで確認しあったり、一度誰かが何かをいうとその話題が済むまで時間がかかる。そんな様子と足元の頼りなさが気になってか、彼女たちの前にすわっていた一人が立ち、席をゆずった。『いやー、すみません、すみませんね～。立ってくれはった、あんた座り』。

『いやいや、わたしはいいから、あんた座り』。『いや、いって、すわり、すわり』。すると、立った人のとなりの人も立った。先と同じ光景が繰り返された。そうこうして、短時間の間に5人ほどが立ち、全員が座ることができた。

さて、降りる時は大丈夫か。目的の駅をやり過ぎさないか、こちらが気になってきた。一人が身を窓の方へよじて、駅を確認する。降りるのは次の駅。隣の仲間とそう確認する。しばらくして録音アナウンスが流れた。『つぎ、次よ、次降りるよ』。

ゆっくりとした足取りで電車を降りる老年女子たち。目の前は階段のみ。『ここは階段やから、エレベーターの方へいこ』とリーダー格の人が言い、人ごみをかきわけ、ホームを歩いていった。弱そうだけど助け合って強く街なかを闊歩する老年女子たち。「お一人様」の先の好例？

グランフロントの庭に新緑



2015/4/23 うつぼ公園
(木)



2015/4/27 木々の気に
(月)

連日の好天、この時期ばかりは大阪でも緑が多いように感じる、新緑のおかげで。ツツジもいっきに花ひらき、藤もそろそろ。5月6日は立夏。

新緑の木々、今日のような晴れた青空の下で眺めるのもいいけど、雨もわるくない。傘をさし足元が少々ぬれても寒くないから平気。途中で雨が上がるようなお天気ならなおさらいい。樹木の肌がきれいになり、外の空気もあらわれ、木の気の流れが倍加するような感じ。森林浴効果もいっそう高まる、という気がする。

木を仰ぎ、新緑を見つめて、ゆっくりと木々の間を歩く。意図して何かを考えるとときもあれば、そうでないときもある。どちらにしても、何かわれにかかったような気持ちになるのだから、やはり人間は自然の一部。そうは言われるけど、実感する人は多くはないかもしれない。でも身をもってそう感じる人が方々にいる。昨夜のカルチャーラジオを聴いて、再確認した。

登山家で医師の今井通子さんの講演。山は緑は、その人本来のものを気づかせてくれると繰り返し語った。わたしもそう思う。